

こころを包む、天使のおくりばこ

商標
とれたて!!

take out a trademark



NPO法人こはぐ

まるでベビーベッドのような可愛さで素材はすべて秋田杉。
こはぐの活動に賛同した多くのメンバーが縫った産着や帽子もセット。

「こころを 個々を ハグしあい 育む」という意味を持つ「こはぐ」は、産前・産後のケアを中心に女性や家族の支援を行う団体として2011年4月に設立。2018年にNPO法人化し、2019年に流産・死産に見舞われた両親と子どものための「おくりばこプロジェクト」を開始。同年には活動内容が全国放送で取り上げられ、各方面から大きな反響を呼んでいる。

「天使ちゃんのおくりばこ」

2019年11月にテレビ番組「天使ちゃんの服～誕生日だったあなたへ～」（テレビ朝日系列）が放送されると、NPO法人こはぐの小田嶋麻貴子代表の元には全国からたくさんの「声」が届いた。

「寄せられたのは『誰かが作ってくれるのを待っていた』、『自分の時もあって欲しかった』という声でした。私たちの活動が色々な方に待ち望まれていたのだと実感することができました」。

「天使ちゃんのおくりばこ」は、流産・死産・新生児死等で突然亡くなり、小さな身体で産まれてきた赤ちゃんを見送るための専用の棺。センターや関係機関などからの助言やクラウドファンディング等の手法を取り入れながら、試行錯誤を繰り返し、約3年かけて完成させた。作り手の想いが詰まったおくりばこには、隅々まで細やかな配慮が行き届いている。

「専用の棺がないため、『お菓子の箱を持って来てください』と言われてたり、着せる洋服がなく、おもちゃ屋さんで人形用の服を買ったりしたという話を聞きました。言い尽くせぬ悲しみの中で、「命を見送る」という行為が満足にできていないことに対して、両親の中で後悔や痛みとして残り続けてしまう現状を変えたいと思ったんです」。

想いは全国へ

小田嶋代表自身もまた、過去には流産を経験している。出産前に亡くなってしまいうケースは、全国で年間約20,000件（厚生労働省平成30年人口動態統計より）と、決して少なくない。しかし、当事者をケアする環境は十分とは言えず、まだまだ各医療施設に対応が託されているというのが実情だ。

「医療関係者からの反響も多かったのが印象的です。多くの声に耳を傾け、ひとつひとつの気持ちに添えていけるのは、私たちNPOだからこそできることだと思います。皆の声の集大成だからこそ、権利を守るための商標登録も行いました。本当は使わないことが一番ですが、見送り方の選択肢のひとつとして、悲しみを少しでも緩和できればと思っています」。

「心の拠り所になれる存在」は、いつか痛みや悲しみを乗り越えるための助けとなる。秋田発のこはぐの活動は全国に広がりながら、これからも多くの人たちの心に寄り添い続ける。



代表
小田嶋 麻貴子
Makiko Odashima

NPO法人こはぐ

〒010-1403
秋田県秋田市上北手荒巻字堺切24-2
メールボックスNo.5
TEL. 070-1148-5589
Mail. kokohug.akita@gmail.com

会社概要

出産前～出産後までの女性とご家族の応援と育児をサポート。
「天使」ママのお話し会を始め、多様な講座・カウンセリングなどを開催。

